

# Day 1

## 簿記の基礎、現金、 当座預金

いよいよ、今日から学習開始ですね。

今日は簿記の基本的なルールと現金、当座預金について学習します。

今日の内容は3級を学習した人にとっては、ほとんど復習です。

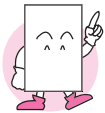


●そもそも「ぼき」とはなんだろう？

# 簿記の必要性

## 簿記とは？

**簿記**は、帳簿記入の略だといわれています。つまり、帳簿をつけること、これが簿記なのです。ここで帳簿というのはノートのことだと思ってください。



簿記の種類はいろいろありますが、建設業で採用される簿記が建設業簿記ですね。

## 「ぼき」はなんのために必要か？

なぜ帳簿をつける必要があるのか、ここからが大切です。

企業はいろいろな活動をしています。モノを買ってきたり、売ったり、作ったり、電話代や給料を支払ったり…。このような活動を記録しておかないと、会社に現金や預金などがいくらあるのか（**財政状態**といいます）、また会社がいくら使って、いくら儲けたか（**経営成績**といいます）がわからなくなります。そのため帳簿をつける必要があるのです。

### 要点

#### 簿記の目的

会社に**なにが**いくらあるのか（財政状態）、会社が**いくら**儲けたか（経営成績）を示すこと



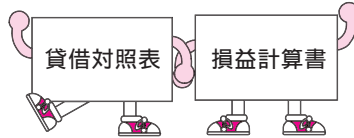
メモしておかなかったから  
儲けがわからないよ～

また、財政状態を明らかにする表を<sup>たいしゃくたいしょうひょう</sup>貸借対照表、経営成績を明らかにする表を<sup>そんえぎけいさんしょ</sup>損益計算書といいます。



貸借対照表…財政状態を明らかにする表  
損益計算書…経営成績を明らかにする表

財政状態を  
明らかにします。



経営成績を  
明らかにします。



---

1 簿記の目的はなに？

---

2 貸借対照表はなにを明らかにする表？

---

3 損益計算書はなにを明らかにする表？

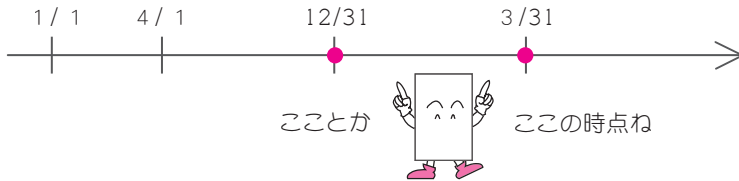
---

●財産の状況を表します

# 貸借対照表を知る！

## 貸借対照表とは？

貸借対照表とは、一定時点で会社になにがいくらあるのか（財政状態）を明らかにする表をいいます。この一定時点のことを決算日けっさんびといえます。



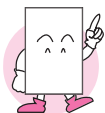
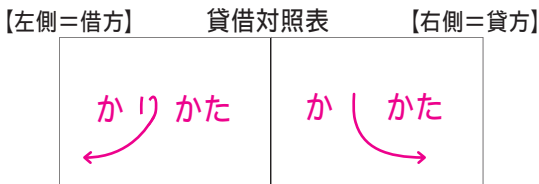
### 要点

#### 決算日とは

決算日…一定時点の締め日のこと

## 借方と貸方

貸借対照表は大きく、左側と右側に分かれます。そして、左側をかりかた（借方）、右側をかしかた（貸方）といえます。



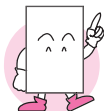
「かりかた」の「り」が左向きなので左、「かしかた」の「し」が右向きなので右と覚えましょう。

## 貸借対照表の右側（貸方）は負債・純資産（資本）

まずは貸借対照表の右側から見ていきましょう。

貸借対照表の右側（貸方）は、会社を使うお金をどのように集めてきたかを表します。

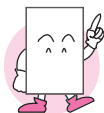
会社の資金調達のひとつに借入れがあります。



資金調達…お金を集めることです。

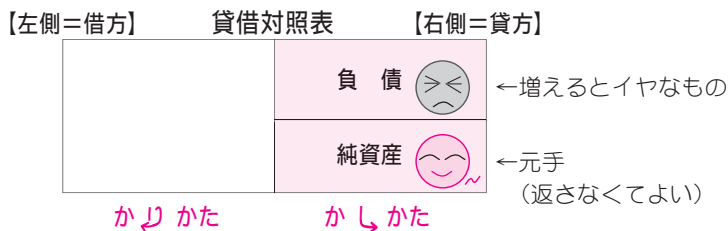
たとえば銀行からお金を借りてくると、「お金が手に入るのと同時に、返さなければならない」という義務が生じます。この義務を<sup>ふさい</sup>負債といいます。借金など増えるとイヤなものが負債です。

また、誰かから出資してもらって、この出資を元手に会社を営むことがあります。出資してもらったお金は返す必要はありません。この返す必要のないお金、つまり会社の元手となるものを<sup>じゅんしさん</sup>純資産（資本）といいます。



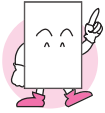
純資産は<sup>しほん</sup>資本ともいいます。

つまり、集めてきたお金のうち、あとで返さなくてはならないものが負債、返さなくてよいものが純資産（資本）ということになります。



## 貸借対照表の左側（借方）は資産

貸借対照表の左側は、集めてきたお金の使い途（運用形態）を表します。現金で残っているのなら現金、土地を買ったなら土地です。これらを資産しさんといいます。



現金も土地も増えたらうれしいですね。  
ですから、増えたらうれしいものが資産です。






### 貸借対照表

【左側=借方】

貸借対照表

【右側=貸方】

 資産 ↑ 増えると うれしいもの か↓かた	負債  ←増えると イヤなもの
	純資産  ←元手 (返さなくて よい) か↓かた

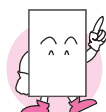
## 勘定科目とは？

簿記では、紙幣や硬貨を現金、ビルやマンションを建物、机やイスを備品かんじょうかもくといいます。これらの現金、建物、備品などを勘定科目かんじょうかもくといいます。

資産、負債、純資産の勘定科目には次のようなものがあります。

## ●資産の勘定科目●

現 金	紙幣や硬貨など
材 料	木材、セメント、鉄骨など
備 品	机、イス、コンピュータなどの事務用品
建 物	自社で使っているビルなど（販売用のものを除く）
完成工事未収入金	完成して引き渡した物件の工事代金の未収額（あとで代金をもらえる権利）
貸 付 金	貸したお金をあとで返してもらえる権利



増えたらうれしいものです。段々と学習していくので、いまの時点で勘定科目を覚える必要はありません。

## ●負債の勘定科目●

工事未払金	工事費用の代金の未払額（あとで代金を支払わなければならない義務）
借 入 金	借りたお金をあとで返さなければならない義務

負債は返さなければなりません。



## ●純資産の勘定科目●

資 本 金	元手や利益など、会社が自由に使えるお金
-------	---------------------



返す必要がありません。

## 貸借対照表のルール

貸借対照表は必ず右側と左側が一致します。また、純資産は資産から負債を引いて計算します。

$$\text{資産} - \text{負債} = \text{純資産 (資本)}$$

## 貸借対照表の形

貸借対照表の正式な形は次のとおりです。

資 産		金 額	負債・純資産	金 額
借 方	現 金	240	工 事 未 払 金	230
	完成工事未収入金	400	借 入 金	270
	建 物	310	資 本 金	450
		950		950

借方合計と貸方合計（貸借合計）は必ず一致



1 借方と貸方はどっちが右？

2 貸借対照表の右と左はなにがある？

3 貸借対照表のルールは？